

原田 野乃  
HARADA Nono



認知バイアスによる錯覚との対話  
ミクストメディア

## 認知バイアスによる錯覚との対話

信じるものが正しいとは限らない。

それに気づいたのは友達から裏切られたことや、大人への妄信が砕かれた時だった。

例えば父の女の子だから泣くなという意味の分からない発言。母が牛乳は良くないと本で読んだことから突然給食の牛乳を辞めさせられたこと。

更にそれを同級生に納得してもらえず母に相談すると、今まで私に嘘を付くなと言っていたのに牛乳アレルギーと嘘を付けと言う。

他にも様々な違和感の積み重ねが、今当たり前になっているような光景や出来事に対し、何か問題点がある、もしくは後に問題になるのではないかと深く考えるきっかけを生んだ。

私はそういった現状への疑問や不安に、デフォルメや誇張を施して作品にしている。

しかしそれはあくまで私個人が感じたものだ。見えたものを押し付けたい訳ではなく、本当にそうなのかを私も知りたいのだ。

それは人や社会に疑問や裏切られる不安を抱えながらも希望を抱いているからだと考える。

小さい頃の純粋な思い出、家族への愛や友達、尊敬できる人たち、また好きな物語等。

それらは私に人を信じたいと思わせ、世界の平和等といったファンタジーの住人のような希望的考えを捨てさせてくれない。人や社会にそのような希望を抱いているからこそ私の作品は、とある現状又は予想される出来事に、私は思いますが貴方はどう思いますか?という問いかけの形をとるのだろう。

このような人や社会を正しいのか疑問に思う心と、人が考え合うことで良くしていけるかもしれないという希望の二つが、私らしい作品を作らせるのだと思う。

人は性格も考えも育った環境も違う。それ故に違う目線から考えることができる。人は必ずしも正しくないからこそ複数人で話し合い、違った考えを取り入れることで、未来に続くより良い道を探して行けるとどこかで信じている。

現状をどうしていけばいいのか。作品を通して見る人と一緒に考えていきたい。敢えて